北アルプス
唐沢岳幕岩・左方ルンゼ

2009.3.14-15　L：河崎、斉藤、小籐

3.14（土）

今シーズンの目標に唐幕があった。数年前からアイスに力を入れてきて、着実に経験を積んできたと感じる。左方ルンゼには核心のF2があり、そのトレーニングとして数週間前には八ヶ岳の大同心大滝も登った。数年前に初めて登った時よりも結構上達を感じた部分もあり、行くにあたって不安はなかった。

メンバーはいつもの3人組。初日はベースとなる大町の宿（岩小屋）までだけなので、八ヶ岳に行った時と同じように朝出発とする。

しかし、天気は微妙で、予報だと日本海低気圧が昼間通り過ぎ、その後寒気が入るが日曜日には回復する予定。どの程度雪が降り、回復が進むか。

葛温泉に着き準備をして出発するが、雪の中の出発となり、結構本降りな感じだ。しかし、途中途中でトンネルが結構あり、雪まみれにならなくていいのはうれしい。七倉には黒猫がいて、小屋や餌場もちゃんとあった。誰かが飼っているのか？

高瀬ダムから唐沢に入るが、先行パーティーがいる模様。そういえば行く前に情報収集のために同じ日程でガイド山行を組んでいた、某ガイドに問い合わせたのだが、この天気では来るのだろうか？

先行パーティーのおかげでラッセルをしなくて助かるが、結構雪が積もっていてつぼ足の我々には時々埋まって大変だ。（先行Pはワカン）アプローチで気になっていた、金時の滝も左からスムーズに越えることができた。

そうこうするうちに、正面に雪にかすむ幕岩が見えてきたが、凄いハング帯がありなかなかの迫力だ。最後の水が少し出ている滝を越えると、先行Pのザックが3つ置いてあり、偵察に出ている模様。ここら辺から大町の宿を探すのだが、初めてだと分かり難いらしい。ガイド通りに右のルンゼを詰めて行こうと登り始めると、3人が戻ってきてここを登ればあるという。登り始めてしばらくすると、次第に風も強くなり地吹雪状態になり周りも見えなくなり、初めての我々には岩小屋はうまく探せなくなり、先行Pに先を譲る。少し行くと無事岩小屋を発見できたが、思ったよりテントを張れるスペースが狭く、雪を馴らしてやっとスペースを作れた。夏だと2人用テントがやっとだろう。

岩小屋には冬でも枯れない水場があると書いてあったがそんなものは無く、仕方なく下の滝まで水を汲みに行った。結果、水作りの手間が省けてかなり楽であった。

明日の天候を気にしながら、夜は小藤さんのチゲ鍋に舌鼓を打って控えめに宴会をやって早めに寝た。

＜コースタイム＞

本厚木（6：30）-葛温泉（10：30）-高瀬ダム（12：20）-大町の宿下（14：30）

3.15（日）

明け方まで風が強く吹いていたが、出発する頃には収まってきて、天気も予報どおり回復してきたようだ。星も見え、気持ちも高まってくる。先行P　のトレース沿いにしばらくは行くが、彼らはS字状ルートに行くと言っていたので、そこからはラッセルとなる。出発して30分もすると夜明けの薄明かりの中、右手にルンゼが出合い、その奥にはF2と思しき氷瀑が見える。

これに間違いないということで、準備を整える。下降は懸垂で戻ってくる予定なので、アプローチの雪崩を考え、念のため着けて来たビーコンやスコップなどいらないものはデポする。

明るくなった6時、登攀開始。見えているF2まではノーザイルで行き、そこからいきなり核心の登攀だ。下から見ると思ったほど立っていないが、登り始めると雪が解けて凍ったようなザクザクの氷の下に、固めの氷があるような状態で、しかも朝一なので体が力んでパンプが早い。大同心大滝よりも苦戦した感じで何とか上まで抜けた。セカンドの斉藤さんはテンションが掛かっていたが、アックスを同じところに打って氷が割れたとの事。本にも書いてあるが、そうすると割れるのでよろしくない。その先F3も続けて私がリードするが、早くも核心は終わっているので、気が楽である。

その先は斉藤さんと小籐さんにもリードしてもらい、予定より少し遅れたが5時間弱ほどでF6上まで行けた。途中見下ろすとすっかり快晴になった青空の下、高瀬ダムが綺麗であった。北アルプスの山の中でアイスクライミングをしている爽快感があった。

下降は懸垂である。ガイドブックにはB沢のコルまで行くなどと書いてあるが、ネットなどで

調べると結構懸垂で降りているし、潅木も豊富なのでその方が早いだろう。5－6回懸垂をし、取付きに戻ると、すっかり天気も良くなっており、無事登れた充実感もあり、気分も良い。

その後テントを撤収し下山を開始するが、S字状ルートを登ったパーティーが懸垂をしているところであった。まだしばらく時間が掛かりそうで、下山は暗くなることだろう。

下山途中高瀬ダムから見上げる幕岩は、晴れ渡る空の下スケールもあり、行きには見れなかった表情を見せていて、無事登れた充実感がこみ上げてきた。

帰りはまたひたすらトンネル歩きであったが、行きとは違って天気もいいので青空の下歩きたいねなどと言っていた。

途中、斉藤さんがトンネルの中で凍った路面に足を取られてスリップし転ぶシーンがあったが、それがその後捻挫となりしばらく後を引くこととなった。油断は禁物です。

今シーズンは回数こそ、先シーズンまでと比べて少し減ったが、内容的には今までのシーズンの中でも実りが多かったのではないかと思う。年末の黄蓮谷左俣・篠沢七丈瀑というビックルートにいけた事と、バーチカルを登る事にある程度手ごたえを感じることが出来たことが、収穫であった。

また、途中から小藤さんと言う強力なメンバーが加わり、一緒に行けるメンバーが増えたのもうれしい。

来シーズンはさらにバーチカルを極めて行き、安定して登れるようになるのが目標である。

＜コースタイム＞

起床（3：30）-出発（5：00）-取付き（5：30）-登攀開始（6：00）-F6上（10：50）-（懸垂）-取付き（12：30）-テンバ（13：20～14：00）-高瀬ダム（15：30）-葛温泉（17：10）